瀬戸内の風景に響きあい、まちの賑わいを創出するパブリックスペースをつくります

瀬戸内文化への敬意を払った静謐な建築

瀬戸内には穏やかな気候風土のもと、里海の漁村、里地の農村、里山の山村等の営みが中心となり、自然環境と一体となった文化が根付いており、現在も自然と歴史と文化が渾然となった重層的で多様な風景を持っています。本計画ではこうした瀬戸内特有の文化に敬意を払い、奇抜さや派手さを競うのではなく、地域に密着し、周辺の豊かな景観や自然環境と融合する静謐で真摯な建築を目指します。

穏やかな海とサンポートの景観に調和する低くのびやかな大屋根と大地

外観は、海と空の接点を表現した伸びやかな屋根による「水平線」と、瀬戸内の島影を表現した「緑の丘」のシンプルなシルエットにより瀬戸内の風景を抽象化します。

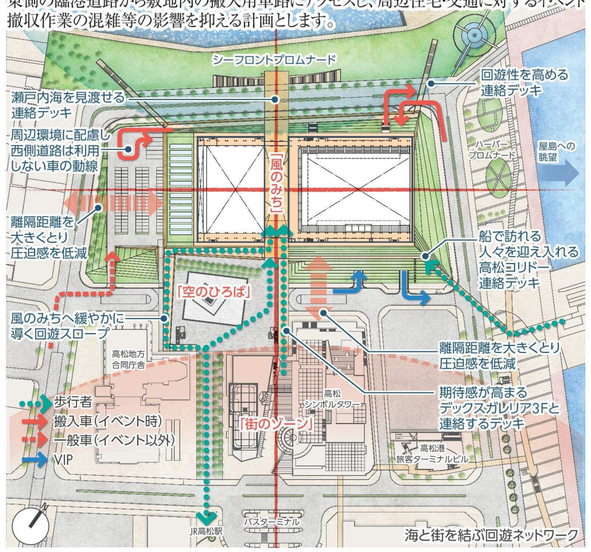
瀬戸内に浮かぶ島々と青い空を象徴した建築、空と海がひとつになって輝く、上下天光(しょうかてんこう)のデザインを目指します。

緑の丘を受け止める石積みの壁は水城である玉藻城と調和し、海の玄関口としての一体的な景観を形成します。緑の丘と大屋根との間に設けられたガラス面は船着き場側に大きく開かれ、船で高松を訪れる人々をやさしく迎え入れます。

サンポートのまちを活性化する歩行者回遊ネットワークの拡充

来客満足度を高める観点から、アクセスしやすい立地、オープンスペース、ホテル、ホール等を備えるサンポート高松は、街を活性化させる交流施設の計画地として理想的な環境です。そのポテンシャルを活かすためにも、既存の歩行者ネットワークを延長し、新体育館と街の連続性及び回遊性を高めることで、周辺エリアとの相乗的な賑わいを創出します。

デッキ整備と明確なゾーニングにより、歩車の動線を分離します。イベント関係車両は東側の臨港道路から敷地内の搬入用車路にアクセスし、周辺住宅・交通に対するイベント撤収作業の混雑等の影響を抑える計画とします。



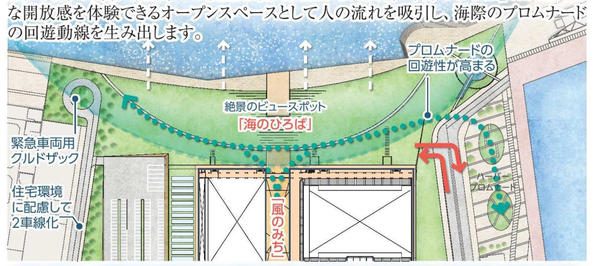
海と街を結ぶ回遊ネットワーク

オプション提案

瀬戸内の魅力を発信するオープンスペース「海のひろば」

当初の街区計画時からの状況変化により、北側道路は機能的に不要と考えられます。海際のオープンスペースとして高いポテンシャルを持つシーフロントプロムナードを有効に活用するため、廃道にして新体育館と一体整備することを提案します。

瀬戸内海の島影や屋島への眺望を最大限生かした広場=「海のひろば」は、圧倒的な開放感を体験できるオープンスペースとして人の流れを吸引し、海際のプロムナードの回遊動線を生み出します。



海に向かって開かれた緩やかで広大な緑の斜面は、花火大会の観覧席、瀬戸内国際芸術祭、サマーナイトフェスティバル、その他音楽イベントなどの格好の会場となります。毎日通いたくなる、行きたくなる日常の憩いの場としての風景を生み出します。

オプション提案

駅から人々を招き入れるサンポートの中心的広場「空のひろば」

高松駅からの人々を新体育館へと導く多目的広場=「空のひろば」には、ゆるやかな回廊スロープやシンボルタワーとの連絡ブリッジを設け、回遊動線を生み出します。建物と一体化し、周辺施設と立体的に連結する広場は、さぬきマルシェや新体育館と連携したイベント会場として活用することで、街にさらなる賑わいを生み出します。

高さを抑え既存施設からの眺望に配慮

シンボルタワーなどの既存建物の主要個所からの眺望に配慮し、離隔距離を85mとり、建物高さを低く抑えます。また奇抜な形態や色彩を避けることで、瀬戸内への景観を阻害しない計画とします。

既存施設の眺望を阻害しない計画

賑わいを生み出す「空のひろば」

6F会議場からの見え方

3Fホワイエからの見え方

瀬戸内の島影にとけこむ緑の丘

オプション提案